

平成26年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

平成26年4月23日（水） 14時00分～15時30分

II 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

III 出席者

1 委員 20名中15名出席

梅本委員、大澤委員、小笠委員、沖本委員、小野委員、梶原委員、小林委員、崎田委員、鍋島委員、西野委員、東川委員、福岡委員、古川委員、本川委員、山下委員
（欠席：亀田委員、曾根委員、中本委員、満田委員、山本委員）

2 オブザーバー 3名中2名出席

上村オブザーバー、藤岡オブザーバー
（欠席：宮原オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、教育委員会学校教育部指導第二課長

IV 会議次第

1 開会

2 議事

- (1) 「広島市スポーツ振興計画」の推進施策について
- (2) 平成26年度スポーツ振興関係予算について

3 閉会

V 公開・非公開の別

公開

VI 傍聴者

無し

VII 会議資料

平成26年度第1回広島市スポーツ推進審議会 次第

広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

平成26年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図
議事関係

議事資料1-1：「広島市スポーツ振興計画」の推進施策体系

議事資料1-2：「広島市スポーツ振興計画」に掲げた推進施策の主な取組状況について
（平成25年度）

議事資料1-3：数値目標の進捗状況

議事資料2：平成26年度スポーツ振興関係予算

【別添資料】

- 1 「広島市学区体育協会の諸活動」に関するアンケート調査結果
- 2 高齢者減免制度の見直し後のスポーツセンター等の利用者数について（速報値）
- 3 スポーツ指導者シンポジウム 2013
- 4 特別臨時列車「サンフレッチェ・応援トラム」

Ⅷ 会議・発言の要旨

1 開会

2 議事

- (1) 「広島市スポーツ振興計画」の推進施策について
- (2) 平成26年度スポーツ振興関係予算について

〔スポーツ振興課長〕

（議事資料1-1、1-2、1-3及び議事資料2説明）

〔東川会長〕

それぞれの事業について実績等も踏まえながら、丁寧な説明をいただいた。それでは議事として用意した2つの事柄について、委員の皆様から御意見あるいは御質問をお願いしたい。

〔小笠委員〕

議事資料1-2に基本方針に沿った各施策の結果(昨年度の数字)がいくつか載っているが、拝見する上で、ほとんどの事業が前年割れということによろしいか。部分的に微増のところもあるようだが、例えば1枚目のスポーツスクール事業も全て▲マークということは、参加者は減っているということなのか。これは全ての項目を見ても非常に目立つ様だが、これはどういう要因があって、先ほど大きい数字についてはいくつか御説明いただいたが、総合的に見て非常に減っているというのは、由々しき状況だと思うが、このあたりどのようにお考えか。

〔スポーツ振興課長〕

確かに前年度数値と比較すると、若干減っている。先程示した大きなものは説明させていただいたが、事業部分を変えたりしたものも、あるいは、実施できなかった事業もある。確かに減っているので、今後こういった形で進めていくかということをもう一度スポーツ協会等とも協議しながら進めていきたい。これが実際の数値であるので、この数値を上げるように努力していきたい。

〔梶原委員〕

今御指摘があったスポーツスクール事業、スポーツ活動促進事業といった事業で、前年度と比べて下回っている数値が目立つことは確かだが、大きな要因の1つは施設の老朽化がある。例をあげると、中工場の施設は新しくなり、そこで湯が沸かせるため、それを使って地元の皆さんを中心に吉島屋内プールを利用いただいているが、その配管そのものが老朽化のために腐食し、湯が漏れ出していて、その補修のために1カ月ほどプールを閉館したことが1つある。もう1つは、全部は説明しきれないが、安佐北区スポーツセンターも計画的に改修しているが、大体育室の床が傷んでいるので、この工事を1カ月近く行い、そのために卓球教室と体

操教室の一部は実施できなかった。先ほどの吉島屋内プールでは、水泳教室の何教室かは中止し、実施できなかった。

次に、広島市の委託を受けている、健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興、その中にアクティブシニア健康増進リーダー養成事業とかメタボリックシンドローム対策支援事業をやっているが、これはどうしても、最初に新規事業で始めた年は、意欲のある方が手を挙げて来られるが、2年目3年目と同じ内容で開催すると、そういった方がいなくなるので、年を追うごとに利用者が減っていく。したがって、このような事業については、毎年か毎にリニューアルして、新しいテーマで取り組んでいかないといけないと考えており、その辺りは委託事業であるので、翌年度の予算編成に向けての協議の中で、広島市とスポーツ協会の両方で調整している。だが、まず通常の場合3年間は、同じスタイルで実施しているので、まだ3年目がきていないことから、少し鮮度が落ちてきている。

それと、地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興のところで、スポーツ・レクリエーションフェスティバル。これは参加者数が61,005人で1万人近く減ったという結果がある。これはアジア競技大会を記念して広域公園の施設を市民の皆様に使っていただき、スポーツ・レクリエーションを体育の日を中心とした催しの1つとして親しんでいただく事業で、各区単位で様々な種目の代表チームをつくり、区対抗競技や自由参加種目というのをやっているが、昨年の場合、その日に広島カープのクライマックスシリーズの試合が重なった。前の年まではカープとの競合はなかったが、昨年は残念ながらそういうことがあった。下がった数値については、そういった状況があることを報告させていただく。

[小笠委員]

先ほど説明いただいた、地域行事と重なっているというのは、カープのクライマックスシリーズが重なったという意味か。

[スポーツ振興課長]

それと、地域のお祭りと重なったというのがある。

[小笠委員]

日程設定に問題があるということなのか。

[スポーツ振興課長]

日程設定にも多少問題はあると思う。

[小笠委員]

いずれにしても、前年比という意味でこのような数字が出ると、去年と同じものを上手くやるということがあるとしても、減少傾向があると、常に何らかの対応を考えなければいけないことになるので、是非新年度の事業に向けて、より参加者が増えるような施策をお願いしたい。

[鍋島委員]

小笠さんの質問に近い質問になるかと思うが、高齢者のスポーツについて話をさせていただこうと思う。少し極端な言い方をすると、人間は幸せになるために生きるという唯一の動物だと思う。そういう動物にとってスポーツというのは、まさに幸せを広げるものであり、人々の元気を引き出していくのがスポーツではないかと思う。でも、今考えてみると、その幸せとい

うのは、大きく揺れていると思う。今回の参加者の低下にも関係あるかもしれないが、地域の絆がすごく弱まっており、人と人との助け合いという面では非常に課題を残している。そういう中で無縁社会と言われ、人々の孤立死の問題とか幸せではない環境が作りだされている気がする。町内会等の加入率も多分6%くらいだと思う。広島市内でも20%くらいのところがあるが、全体的にみると凄く低いと思う。もちろん子ども会の加入率も下がり、逆に高齢化社会で団塊世代が高齢化にどんどん入っているにも関わらず、老人クラブが少なくなっている。

そういうところから、スポーツに対しても積極的に参加するよりも、あまり縁がない方向に物事が振れていくのではという気がする。このスポーツ振興計画についても、審議会委員で色々な意見を出し、今のものをつくっていただいたわけだが、高齢者の問題が皆さん御存知のとおり、65歳以上の方が4分の1になったことは中国新聞に出ていたが、最近のデータでは、広島県のことで市がどうかはよく分からないが、平均寿命が女性の場合、広島県では87歳に近いのではないと思う。今、健康年齢というのが凄く言われる時代になっており、健康年齢は広島県の場合、女性が72歳で、これは大変なことだと思う。15年間、ほぼ寝たきりの人が凄く多いということで、県の方で何か調査をしたと聞いているが、そういう中で、広島県の健康年齢が日本全国の中でワースト2、一番下が岐阜県で、その上が広島県である。

そういう面では、健康のためにスポーツを楽しむとかフィジカルレクリエーションを取り入れながらできるだけ健康でいて、最後にコトンといくような社会をつくっていかないと、人生を元気に勤めた人が最終的になって、非常に幸せでない生き方が出てきているのが現実だと思う。

これからは予防という視点でスポーツを楽しんでもらうこと、間違いなく、スポーツを楽しみながら生きがいを生み出しながら健康づくりのできるプログラムがこれから凄く期待されているのではないと思う。孤立になるような今の社会の中でスポーツの役割は大きいのではないかなと思うながら、では具体的に何をするのかということになると、やはり去年やったことをやるということが多いと思うが、発想の転換で今までやったことは関係なしに、今まで馬鹿にされたようなことを本気で今取り組まないと、スポーツに参加してもらうような環境ができないような気がする。

[東川会長]

大変重要な課題になってくると思うが、今の鍋島委員の御意見に対し、市の方から何かあればお願いしたい。実際に数値も使用料の見直しへ若干反映している場合もある訳だが。

[市民局長]

ただいま鍋島委員からあった意見は、本当に大事な視点だと思う。と言うのは、先ほど委員の方から具体的な数値を言われたが、確かに日本は超高齢化社会を基本的には迎えている。超高齢化社会というのは、高齢者の65歳以上の人口が総人口を占める割合の23%を超えた社会を言うが、広島市は都市部のため、そこまではいっていない。ただいずれ、時間の問題で同じような道を辿ると思うが、その時に高齢者が長生きをすることは大変良いことだが、先ほど御指摘があったようにそれが寝たきりの状態でただ生きるということでは、本当に幸せな状態とは言えないと思う。その意味で、やはり元気に長生きしてもらうことが大事であり、そのためには高齢者の方が元気であるためには、競技スポーツの世界はもう無理でしょうが、やはり日常で体を動かしてレクリエーション活動なり、あるいは軽いスポーツなどで健康を保持していただくことが大事だと考える。

だから、広島市としては、年齢に関係なくスポーツがもたらす効用は大きいため、市民全体

が競技スポーツだけでなく幅広くスポーツ、レクリエーション活動に取り組めるような施策を展開していく必要があると考える。

[大澤委員]

私は矢野南のニュータウンでシニアの方と一緒にテニスをさせていただいている。シニアの方は大変生き生きとされ、86歳の方もはつらつと走っている。ただとても残念なことに、老朽化があり、コートにも寿命がある。そういう点で、及川局長さんの御尽力もあり環境が整ってきた。ただ水道がないテニスコートは、大変使いづらく、水道設備をつけてもらう約束が、今年になって予算的に難しくなったということもあった。でも、すぐに来てもらいたいことがあれば調べてもらい、環境を整えていただいたという意味ですごく感謝している。

先程のシニアの方ももちろん大事だし、世界を超えてということで矢野南のボランティアで頑張っている方から異世代間交流を考えていると言っていた。それは、シニアの方と小学生と一緒にイベントを企画していきたいとか、そういうことを一生懸命考えている方もいる。そして、婚活をしないといけない年頃の娘や息子がおり、その子たちに聞き、「お母さん、シニアや子どものことは言うけど、僕たちのことも何とかしてよ。婚活といってもお金をかけない婚活でないと、今ごろの若い人はお金がないんだから、スポーツ教室でも、子どもさんのためのスケート教室、親子スケート教室、シニアの方はもちろん健康のためのメタボリックだとか、色々なところがあるけど。」

でも、あの子たちが言うのも確かで、自分たちはお金がないけど婚活したい、例えば、婚活で山登りとか、ウォーキング、若い人・未婚の人を対象としたスケート教室とか、卓球教室とか、水泳教室とか、野球観戦やサッカー観戦、それだったら、あまりお金もかからないでイベントとしてかなり成功するのではと親心で思った。

アメリカに住んでいた時に、シニアもだが、子どもの教室が凄く多かった。それもカリフォルニアのロサンゼルス郊外のアーバイン市に住んでいたが、市がたたくさんプログラムを夏休み前とかに用意してくれ、みんなそれを凄く活用してスイミングに行って泳げるようになったよとか。今もこちらの方では、民間の方でスポーツジムとかスイミングとか、かなり充実したものがあるので、さっき言われた全てのイベントで利用者が減っているというのは、多分民間のスポーツジムとかスポーツクラブなど、かなり私の周りにも利用者の方がいらっしゃる。とても安い料金で、一日利用してもわずかな金額、例えば5千円ぐらいでお風呂も入れて、運動もして帰れて、友達もできてといったら、そちらの方に行ってしまう。そして、シニアの方が子ども料金だけお金を払わなくてはいけなくなったのであれば、どうしても民間の方に行くと思う。でも、一生懸命やってくださって、私のつたない意見も吸い上げていただいてとても感謝している。

[東川会長]

国が平成20年に出したスポーツ立国戦略があるが、その中では、こういうスポーツ関係の普及で、特に広島も30代が落ち込んでいるとあったが、全国的に20代、30代、特に30代が落ち込んでいるというのが課題だが、その中の提案の1つに大澤さんからあったようにスポーツ婚活というのが具体的な項目として挙がっているが、それが具体的にどう展開されたかまでは追っていないが、1つの考え方にこだわらずに皆様が参加しやすいような取組をどう展開するかということも重要だと思いながら聞かせてもらった。

[福岡委員]

「ジュニア選手の育成・強化」や「選手強化に向けたサポート体制の構築」、「トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興」というくくりがあり、その中に「学校にプロの選手や企業の一流選手等を招へいする」とか「全国大会を誘致する」とか色々あると思うが、この中に競技をまたがって、例えば卓球選手だけではなくて、有望である野球選手であるとか、卓球選手であるとか、シンクロナイズドスイミングとか、色んな競技の選手が一堂に介して、指導者や選手間の情報共有、そういうのもいいのかなと思う。

私自身も、今も卓球をしているが、昨年スポーツ推進審議会委員になって、広島カープやJT、メイプルレッズの試合の観戦等に行った。やはり他の競技を見ることで、自分の競技にフィードバックできる部分もたくさんあり、私が小さい頃も広島市に住んでいなかったが、ある合宿所で色んな選手、その地域の選手、隣の市の選手を集めて、講師は陸上の方だったが、同じトレーニングをしたり、レクリエーション大会をしたりとか、そういう集まりがあって、こういうスポーツがあるんだとか、そういうところが小さい頃にとても思い出に残っているので、競技毎でやるのではなく、他の競技との交流とか、指導者にも参考になると思うので、そういうものもやっていただければすごく良いのではないかなと思う。

先程少しお話にあったと思うが、東京オリンピックに向けてのことだが、日の丸をつけるということはなかなか一部の選手に限られ、人数の少ない選手を強化するということで、なかなか予算の方も難しいかなと思うが、例えば、その年に成績を残した選手や有望である選手を東京のナショナルトレーニングセンターに見学に行けるかどうかかわからないが、そういう施設を見たり、情報に触れるというだけでも違うのかなと思う。広島市の中で、学校にプロ選手が来てくれて、それでも十分良いとは思いますが、実際に自分達亲眼で見て、肌で感じるプロの選手のトレーニングの姿であるとか、そういうのは、また違う印象を受けると思う。そういったものも意見として伝えたい。

[東川会長]

現役の選手の方から競技の枠にこだわらずにという、非常に素晴らしいご意見だと思う。ジュニア選手をNTCとか色々なところへの見学だとか。例えば、日本で初めて陸上の世界選手権が東京で行われた時に、是非次の世代の者たちを育てようと、小・中学生をバス2台に乗せて国立競技場に協会として連れて行ったが、その時に見ていたのが小学生の為末大さんだった。

今、福岡委員もおっしゃったように、そういう機会も非常に大切と思うが、これからの事業展開の中で、あるいはそれぞれの団体の中でも何か考えることもあると思い、ちょうど先ほどのトップス広島あたりで関係するかなと思っていましたが、山下委員さんいかがでしょうか。

[山下委員]

先ほど福岡委員の方から発言のあった異種目の応援体制とか、見学しながら自分のスキルを磨くという御意見があった。トップス広島は今9チームが加盟しているが、9チームの中では既に相互応援という事業をし、カープの試合には希望者があったため、JTの選手が行く。先般も越川選手が始球式に出たが、JTの選手全員がカープの試合を見にいった。サンフレッチェの試合にも、空いている選手が行ったり、それぞれ、相互応援ということで活発にしている。

そこで提案だが、そのトップス広島の月に1回実施しているスタッフミーティングだが、そこには広島市スポーツ協会の担当の方に来ていただいているので、身内だけではやっているが、窓口を広島市スポーツ協会の方で担当者と調整しながら、我々の試合がいつあるというふうな情報を各競技団体の方へ出していただいて応援に来られる方があれば受け入れをしたいという

ことを今考えている。これが実現すれば、広島市のためにもよくなるのではないかと思いますので、御協力をよろしくお願いしたい。

先程、スポーツ振興計画10年の中の数値目標についてお話をいただいたが、10年の中で既に3年経過している。数値目標、基本方針、基本項目がある中で2項目については50%以上と、すでに達成しているが、まだ3分の2の期間がある中で50%到達したからこれでいいんだというのではなく、やはり10年の長い期間であるので、数値目標を見直すとか、1番、3番、4番については、23年度の数値とほとんど変わらないという見方ができると思う。あと3分の2の期間が残っているとはいえ、なかなかこのままで行けば、目標に到達するのは至難の業だと私は思う。どこもシビアに取り組んでいかなければ無理だと思う。

初めにも言ったが、またトップス広島で、広島市スポーツ応援隊というので、スポーツ協会の皆さんのおかげで、昨年から活動している。南区では、バレーボールのJT、バドミントンの広島ガス、安佐北区ではホッケーのコカ・コーラウエスト。そこらで100人規模の応援隊ということで派遣していただいている。我々が先ほど言った、相互応援事業と他にはD0スポーツという、小学校5、6年生を対象に、我々が空いている時間帯に体育の授業に行き、それぞれの9種目のスポーツを伝授する中で、それで小学校の子どもは今年7000人くらいの対象者がいたが、関心を持っていた。

しかし、中学校に行くと、そのスポーツクラブがないからできない。せっかく、5・6年生で例えばバレーに興味を持ってもらった。しかし、中学校にバレーボールクラブがほとんどない。ということで、スポーツに親しむ機会がないことが問題だと思う。そこらを、今日明日に解決できる問題ではないが、学校のクラブ活動の充実、そこらを考えていかないと、到底この数値目標には到達できないと思うので、もし良い案があったら、御検討いただき、みんなで数値目標を達成できるようにやっていきたいと思う。よろしくお願いしたい。

[東川会長]

数値目標については、今の振興計画を作成した時に、5年後に見直す必要があるものは、見直しをしようとしているので、その時期が近づいたら、また皆様方にご御検討をいただく時期が来るのではと思う。様々なアイディアもいただいた。その他、いかがか。

[崎田委員]

先程、東京オリンピックの話が出た。状況が変わっているので、議事資料1-1の推進施策体系の文言を少し修正しながら、この会議を行った方がいいと思う。オリンピックに関しては、基本方針4のオリンピックの在り方を含めたスポーツと平和に関する調査研究となっているが、東京オリンピックがあるので、具体的に東京オリンピックを入れて、かつパラリンピックと競技スポーツの選手だけのものだけではないので、文化と芸術もオリンピックの重要な要素のため、その辺も含めて具体的に変更された方がいいと思う。

あと、トップス広島等との連携の最後の民間主体という文言があるが、すでに民間主体ではなくなっているので、早く除去された方がいいと思う。県と市とでやられている御報告であったので。

[東川会長]

振興計画の施策の文言あるいは内容についての御質問だが、事務局の方から何かあればお願いしたい。

[スポーツ振興課長]

先程、会長の方からもあったが、中間年に見直しを検討することになるので、御指摘いただいたことも検討材料として、また、数値目標についても背景とか原因をよく考えながら、検討していきたい。

[東川会長]

計画として策定したもののため、文言もそれにこだわって一つ一つ変えていくということよりも具体的にその中にどういうものを盛り込んでいくかという所で対応していかないと、そういう所で5年後があったので、通常でいけば10年後なわけだが、多分5年後でその見直しをしないと現状に追いつかないのではないかとということでそういう条件が入っていると思うので、私も先ほどの委員さんの御意見もよくわかっているんで、対応の中で運用の中で、一番最後のサッカースタジアムの整備についてもどんどん動いていることもあるので、そういう現状をしっかりと受け止めながら、対応できるところはしていくということかなと思っているが、そういう捉え方でよろしいか。その他、いかがか。

[小笠委員]

今の東京五輪の話でもう少しお伺いしたい部分があり、先ほど、冒頭に課長さんからも御説明があったように、今日の朝刊の件に関してのお話があり、広島市さんからの発言をいただいたが、今後、東京五輪については、市として何ができるかを検討していくというお話があった。

ただ6年後というのは、非常に喫緊に迫っている状況であり、市として、例えば具体的に言うと、福岡は既に実際にキャンプ地としての誘致に入っているという先例市の事例がある。この中で、2020年の東京五輪に向けての動きは待ったなしの状況になっていると思う。この段階で今から何ができるかをカウントしていくという状況では既にないと思う。既に今年度の事業の中から何らかのものを出していかなければならない状況に来ていると思うが、このあたり具体的にどう進めていくのか。

[市民局長]

東京五輪の対応の件だと思うが、実は東京五輪の開催が昨年に決まった後に、広島市の議会の方でも、広島市で何か競技が誘致できないか、あるいはナショナルトレーニングセンターを引っ張ってこれないかとか、色々な御意見が出た。それで、私たちの方でもすぐに情報収集に努め、文科省とかJOCとか、色々なところに行って色々な可能性についての話を伺っている。正直申すと、ナショナルトレーニングセンターについては、まだ国の方として今現在、地方につくるという考えは基本的に持っていないというふうに伺っている。なので、ナショナルトレーニングセンターを広島に引っ張ってくるとか新たにつくってもらうというのは非常に難しいというお話は国の方からいただいた。それが現状である。

可能性として一番地方であるのは、競技種目も実際オリンピックの計画で東京都が出したものがIOCの方で承認を得て決まっているので、競技種目の方を新たに地方で展開するというのは、既に計画書に書いてあるものの変更になるので、基本的にそれは認められないので、要はキャンプ地の方は可能性があるのではないかとこのお話はいただいている。

ただキャンプ地の方は、みなさん今お話があったようにもう立ち上げて準備される所があると言われるが、オリンピックの出場自体が大体どの競技種目もオリンピックが開催される年に決まってくる所が多いので、焦って、ターゲットがなかなか決まらないじゃないかという問題

があるが、実際のキャンプ地の誘致というのが、今回のオリンピックは8月から9月にあるが、その大会の開催のキャンプをするのは、1カ月前くらいの時期になると、JOCからお話を聞いている。そうすると、実際に国を決めて、どの競技を決めて、どこを誘致するかというのは、本当にオリンピックに入った年が勝負になる。

JOCとしては、各国の参加される競技団体に対し、JOCとパートナーシップ協定を結んでいる都市、これを優先的に斡旋するというお話をいただいております、広島市としては、パートナーシップ協定を結んでいるので、広島市の方が積極的にキャンプ地、競技を決めて、どこの国を決めてという形であれば、JOCとしては得心できる、というお話をいただいております、なのでこれからその状況をみながら、実際にキャンプ地についてはどのようなものを引っ張っていくのかを、全県下をあげて取り組みたい。

実は今回、県がこういう組織をつくっていただいたけれども、その下ならしとしては、県の体協の方に、いずれオリンピックでキャンプ地など誘致しようということになれば、競技団体の協力が不可欠である。そうすると、競技団体の総元締めというのは、県の体協の方になるので、県の体協の方に広島市の方からお話をさせていただいて、県の方でそういった全県下の市町村や色々な団体や企業を巻き込んで、全県下挙げて誘致できるような体制をまずつくってくださいということをお願いし、県もそれに応えて、今度、全県下の市町村に声をおかけしますよ、という流れになっている状況である。

[小笠委員]

おっしゃることは十分わかるが、当然ながら全県下の中であっても、オリンピックのキャンプ地という話になると、県内で可能性があるのが広島市しか現実的にはない。その中で、そういうのが突然ふって湧いて、慌てて対応することがないように是非ご準備を進めていただければと思う。

先程色々お話があった、例えば陸上の世界のトップを見せることが、要は東京オリンピックの会場に行かずにして、広島にいる子どもたちが広島のキャンプ地でトップアスリートを見ることができる。これは、この上ないことだと思うので、是非実現、準備の方をよろしく願いできたらと思う。

[山下委員]

先ほどの続きになると思うが、オリンピックのそれぞれの各国の誘致はなかなか難しいと思う。その中で、まず前段として全種目にエントリーできることであるので、それまでに国内のナショナルチームの合宿とかいうのを広島に誘致するとかいうことをやりながら、1か月2か月前迄、少なくとも半年前迄には打診があると思うが、広島によその国からサッカーはどうかというのがあると思う。

その前段として全日本のナショナルチームの競技団体の何かを誘致する。例えば、ホッケーは、なかなか練習場所もなく合宿施設もないことで、昨年、どこかのゴルフ場を利用して、宿泊は経済大学沼田校舎を利用して泊まらなければいけないという日本のマイナー競技のスポーツ団体は非常にお金がない中で強化をしないといけないという種目がたくさんあるので、そういう競技団体を合宿に誘致すれば、それをまた広島市民に見ていただくということは、やぶさかでないの、そこらのこともよくお考えいただければと思うが、いかがか。

[市民局長]

今、山下委員からあった、海外だけでなく、当然国内、日本の代表が出るので、それについての誘致、それも当然考えていきたいと思う。実は例で言うと、日本代表のバスケットボールチーム、これが湯来で合宿したことがあるが、この時、みなさん御存知のとおり、広島の方でもどちらかと言えば田舎の方だが、湯来の子どもたちは大喜びだった。

もう毎日のように本当に選手を見に詰めかけにいて、それでずっとバスケットボールにのめり込んだという話も聞いているので、子どもに与える影響はすごく大きいと我々も分かっているので、そういうことも検討していきたいと思う。

[東川会長]

実際、私も競技団体の実務の責任者をしているので、競技団体、私は陸上だが、陸上の方には本部の日本陸連の方から合宿候補地として手を挙げたいところは連絡くださいというふうな連絡が来ている。

そういう意味では、県の方では調べていただいているわけだが、指示待ちというよりも、あつという間に決まってしまうのでお互いにもっとしっかり連携をとってほしい。前の大阪の世界選手権の時もそうだったが、アメリカに来て欲しいなと決まりかかっていたが、どっかに行ってしまったということがあったので、色々関係の皆さんの方も情報をお持ちだと思うので、是非そういう所の情報を一か所に留めずにそれぞれが共有して行って、今お話いただいたような、やっぱり広島にとって良いものになるようなことができればと思いながら聞いた。

予定していた時間になった。まだまだ御意見もあろうかと思うが、先ほど課長さんの方から御説明にもあったように、今日の内容、あるいは関連すること、更にはもっとこういうことができるのではないかということも含め、提案があれば、次年度の予算等とも関係するので、8月中ぐらいまでにスポーツ振興課の方に御意見をお寄せいただければ大変助かると思う。今日の資料で▲が目についたわけだが、次回は△がたくさん出るように期待をしている。

3 閉会